

優秀賞(学生部門) 出牛雅也

## 私が目指す臨床工学技士

はじめに私が臨床工学技士を目指そうと思ったのは、  
 ダヴィンチという手術支援ロボットを本でみかけたことが  
 きっかけでした。私はもともと機械を触ったりすることが  
 好きだったことからこのロボットに興味を持ち、医療機器  
 について調べていくとこれらに携わる臨床工学技士というも  
 のを知りました。

臨床工学技士になろうと大学に入り1年目の病院見学で、  
 自分の臨床工学技士という仕事について考えを変えさせら  
 れるものでした。私はその時、臨床工学技士は病院内の機  
 器の管理・操作などをしているという考えでした。病院見  
 学では、実際の臨床工学技士の方が実際に働いているところ、  
 院内にある医療機器を見て回るもので、すべての見学が終  
 わった後、案内をしてくれた先生が臨床工学技士として重  
 要なことは何か、と質問を投げかけてくれました。私や友  
 達は医療機器の知識、責任感などと答え、どれももちろん

大事と答えてくれました。しか  
 し、先生はそれらと同じくらい重  
 要なことはコミュニケーション能  
 力、実際の現場では他の医療スタッ  
 フと手術や機器操作を行う際の  
 連携や情報の共有、また特に透



析業務では、患者さんとの関わりが長く、信頼関係を築く  
 ことが必要。患者さんは医療機器のことをよく知らず、そ  
 んな機器を使用しているため、不安は必ずあるはずでそん  
 な不安を少しでも私たちが減らしていくためにもコミュニ  
 ケーション能力も大切だと教えてくれました。これを聞き、  
 医療機器の知識が特に必要で機器の管理や操作のみをして  
 いればいいという考えだけではなく、患者さんとの関係を  
 築くことも臨床工学技士には重要だと深く感じました。

この病院見学での先生との出会いで、自分ができること  
 はただ機器を操作するだけではなく、患者さんの精神的  
 な面でも手助けをすることができると気づかされたこと  
 で、より患者さんと近い臨床工学技士を目指そうと決め  
 たことは忘れられません。

